

## 公認会計士の同時合格

めざす

左が姉の志津さん、右が妹の奈緒さん



中央大学では、2万5千人の学生がさまざまな目的を持ちながらキャンパスライフを送っている。なかでも同じ学部、同じ学年、同じ目標を持つ、なにからなにまで「同じ」づくしの双子の姉妹がいる。商学部の3年生で公認会計士をめざす2人は、1年生の11月に、日商簿記1級を同時合格という快挙をなし遂げ、学内の話題となった。

そして、その目標を達成した後も、次の超難関といわれる公認会計士の資格に挑戦すべく頑張っている。いったい彼女たちを何がそうさせるのか。どんな勉強から、そんなパワーが出てくるのか。彼女たちの素顔に迫ってみた。  
(学生記者 = 柿元 理榮)

## 勉強面で双子パワーを発揮

「姉の三浦志津です。会計学科です」といわれても、「妹の三浦奈緒です。経営学科です」といわれても、セーターの色以外はすべて同じ。声までも同じだから、こちらが目をつむっていたら、もう分からない。相手を「志津ちゃん」「奈緒ちゃん」と呼び合い、生まれた時から小学、中学、高校、大学まで一緒とあって、とにかく仲がよい。

2人は高校時代に、いくつかの大学のオープンキャンパスに参加している。「大学まではさすがに同じ学校はイヤだったので、受験期間中は願書提出までずっと志望校を内緒にしていたんです」と姉の志津さ

ん。中大を受けようと思いついた動機までも一緒に、「まず、大学が自然に囲まれている、校舎も綺麗であることが魅力的だった。また、自分が勉強したい学科があり、家が大学に近い」と2人は口をそろえた。本当に言葉まで合う。

しかし、いつも一緒ではストレスが溜まらないだろうか。すると志津さんが「ささいなことで、よく喧嘩をしています」と打ち明けてくれた。「なるほど、それがストレス発散法なんだな。仲良しの秘訣はこれか」と、勝手に納得する。取材の場では、絶えずお姉さんがリードし、奈緒さんが同

意する側に回っていた。

ここで、ちょっと意地悪な質問を試みた。「お互いをどう思っているの」と聞いてみた。妹の奈緒さんが「姉はやっぱり長女ですね。自己中心的なところがあって……」。すると、お姉さんからは「妹はちょっと人見知りするかなあ。本当は私よりハシャグの」とやり返す。

2人の目標は、いまや公認会計士。彼女たちにとっては「公認会計士という仕事は、一つの業界だけでなく、多くの業界で活躍できるので、広い視野を持てるし、男性と対等な環境で働けるのが、なによりの魅力です」ということになる。

姉妹の話は、どこまでもハモる。「大学では、さすがに同じ学校を避けようとしていたため、願書を提出する時期までは、お互いずっと志望校を内緒にしておいた」（姉）というが、ところが中央大学について感じた印象では2人は一致した。「まず、大学が自然に囲まれていて、すごく綺麗であることがなにより魅力的でした。また、自分の勉強したい学科があり、幸運にも家が大学に近かった」という。

結果的には2人とも中大商学部を受験したわけだが、それぞれ持っている目標は違った。志津さんは公認会計士になるため会計学科を、奈緒さんはマーケティングに興味があり、経営学科を選択した。

こうして2人は新しい目標に向かって、間もなく経理研究所に入った。姉は「自分のなりたい公認会計士に一番近づけるように思って」と話せば、奈緒さんは「ただ、何となく学校に通うのが嫌で、何かやらなくちゃと思ったのと、簿記が経営に役立つので」と入所の動機を語ってくれた。

同じ机で肩を並べた2人は、遊ぶ暇も惜しんで経理研究所での勉強に励んだ。「わりと、きちんと授業に出ています。私はすごく心配性なところがあって、授業に

出なきゃ単位がもらえないじゃないかって……。経理研は5～6時限帯で授業をやっているの、一日中、簿記をやっているわけではないんですよ」と奈緒さんは照れぎみにいった。

そんなことをいいながらも、2人は時間を見つけては勉強している。「そんなに」と思ったが、日商簿記の合格で目標に着実に前進している喜びを知っているだけに、少しも苦にはならないという。時々、勉強に疲れてストレスがたまったりすると、家族でスポーツセンターへ行って気分転換する。「ストレス解消には体を動かすことが一番」らしい。

## 会計の世界に新風を

それでも、やっぱり勉強するのがイヤになる時がある。そんな時は、研究所の先生と話をしたり、仲間たちの勉強している姿を見たりして、意識を高めている。勉強をする時にも“二人三脚”の素晴らしさは発揮される。双方がわからない問題にぶつかった時は、そのわからないところが明確に把握できるチャンスだし、1人だと気づかないところも、相手が見落とさないという利点がある。

こうした努力をしてきた結果が、大学1年の11月に発表された日商簿記一級の同時合格につながった。しかし、それも“夢への通過点”に過ぎない。同時合格の喜びも束の間、いま彼女たちは「国際的な会計士」になるため、会計の勉強はもちろん、英語の勉強にも力を注いでいる。

「近い将来、2人は会計の世界に新しい風を巻き起すに違いない」彼女たちの生き生きとした目を見ていて、そんな予感がした。「頑張り！ 三浦さん姉妹」

(『Hakumonn ちゅうおう』01年4月号から転載しました)